

平成17年度宮城県学習状況調査結果の概要について

I 調査の概要

- 1 県内小・中学校児童生徒の学習定着状況を調査し、今後の学習指導の改善充実に資するため、小学校5年生（国語・社会・算数・理科）及び中学校2年生（国語・社会・数学・理科・英語）を対象に、平成17年10月27日（木）、28日（金）に悉皆で実施した。
- 2 平成16年度に引き続き、宮城・岩手・和歌山・福岡各県が参画する地方分権研究会の取組の一環として、4県同一問題で実施した。また、本県独自で学習意識調査を実施した。

II 結果の概要と特徴（別紙1・2・3・4参照）

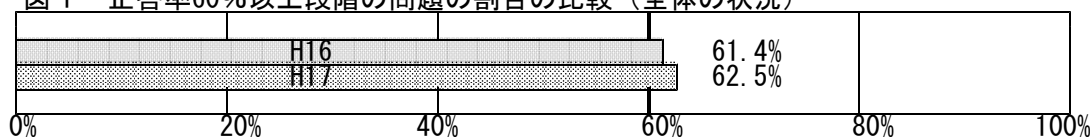
1 学習状況調査

（1）全体の状況

① 正答率60%以上段階の問題の割合（別紙1・4）

- 調査に際し従来から本県で定着の目安と想定した正答率60%以上段階の問題の割合が6割を超え（小中計288問中180問、全体の62.5%）、全体としておおむね学習内容が定着していると判断できる。前年度との比較では、今年度は前年度（61.4%）を1.1ポイント上回った（図1）。

図1 正答率60%以上段階の問題の割合の比較（全体の状況）

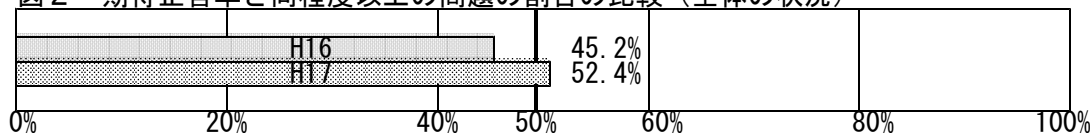


- 以上を、地方分権研究会参画4県全体の状況（4県65.3%）と比較すると、本県は4県全体の状況を2.8ポイント下回った。

② 期待正答率と同程度以上の問題の割合（別紙2・4）

- 地方分権研究会では問題ごとに期待正答率を設定し、期待正答率と同程度以上の問題の割合が5割を超えた場合におおむね学習内容が定着しているとしたが、本県の割合は52.4%（小中288問中151問）と5割を超えた。前年度との比較では、今年度は前年度（45.2%）を7.2ポイント上回った（図2）。

図2 期待正答率と同程度以上の問題の割合の比較（全体の状況）



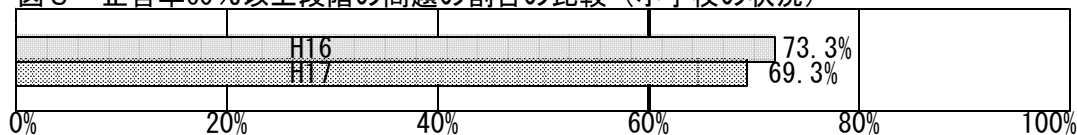
- 以上を、参画4県全体の状況（4県54.9%）と比較すると、本県は4県全体の状況を2.5ポイント下回った。

（2）小学校の状況

① 正答率60%以上段階の問題の割合（別紙1・4）

- 学習定着の目安とした正答率60%以上段階の問題は、国語31問中21問（67.7%）、社会28問中25問（89.3%）、算数33問中22問（66.7%）、理科35問中20問（57.1%）と、3教科は6割を超えた。
- 4教科での正答率60%以上段階の問題の割合を前年度と比較すると、今年度（69.3%）は前年度（73.3%）を4.0ポイント下回った（図3）。

図3 正答率60%以上段階の問題の割合の比較（小学校の状況）

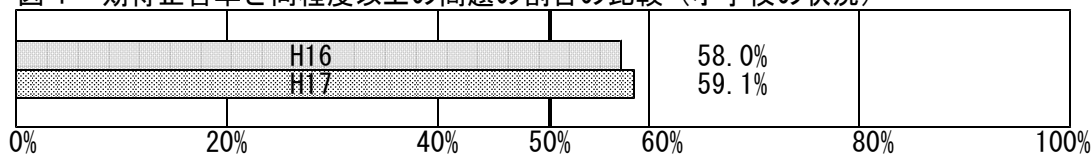


- 参画4県全体の状況と比較すると、本県は社会（4県89.3%）は同割合であったが、国語（4県74.2%）、算数（4県69.7%）、理科（4県62.9%）は下回り、前年度と同様の傾向となった。4教科を合わせた4県全体の状況（4県73.2%）との比較では、本県は3.9ポイント下回った。

② 期待正答率と同程度以上の問題の割合（別紙2・4）

- 期待正答率と同程度以上の問題の割合は59.1%であり、おおむね学習内容が定着している。前年度（58.0%）との比較では、今年度は、1.1ポイント上回った（図4）。

図4 期待正答率と同程度以上の問題の割合の比較（小学校の状況）



- 前年度は4教科すべてで4県の状況を下回ったが、今年度は社会（4県75.0%）、理科（4県51.4%）の2教科が4県と同割合となった。
参画4県全体の状況（4県63.0%）と比較すると、本県は3.9ポイント下回った。

(3) 中学校の状況

① 正答率60%以上段階の問題の割合（別紙1・4）

- 学習定着の目安とした正答率60%以上段階の問題は、国語32問中23問（71.9%）、社会34問中17問（50.0%）、数学30問中16問（53.3%）、理科35問中16問（45.7%）、英語30問中20問（66.7%）と、国語と英語は定着の目安を上回ったものの、社会、数学、理科では前年度に引き続き、定着の目安の段階に達しない結果となった。
- 5教科での正答率60%以上段階の割合を前年度と比較すると、今年度（57.1%）は前年度（51.6%）を5.5ポイント上回った（図5）。

図5 正答率60%以上段階の問題の割合の比較（中学校の状況）

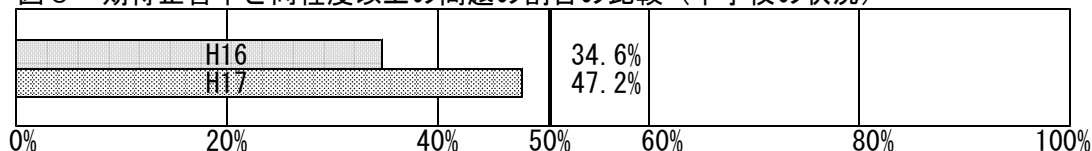


- 参画4県全体の状況と比較すると、本県は社会（4県50.0%）、理科（4県45.7%）、英語（4県66.7%）の3教科は同割合であったが、国語（4県75.0%）、数学（4県60.0%）は下回り、前年度と同様の傾向となった。
5教科合わせた4県全体の状況（4県61.8%）との比較では、本県は4.7ポイント下回った。

② 期待正答率と同程度以上の問題の割合（別紙2・4）

- 期待正答率と同程度以上の問題の割合は、47.2%と5割に達しない状況となった。前年度（34.6%）との比較では、今年度は12.6ポイント上回った（図6）。

図6 期待正答率と同程度以上の問題の割合の比較（中学校の状況）

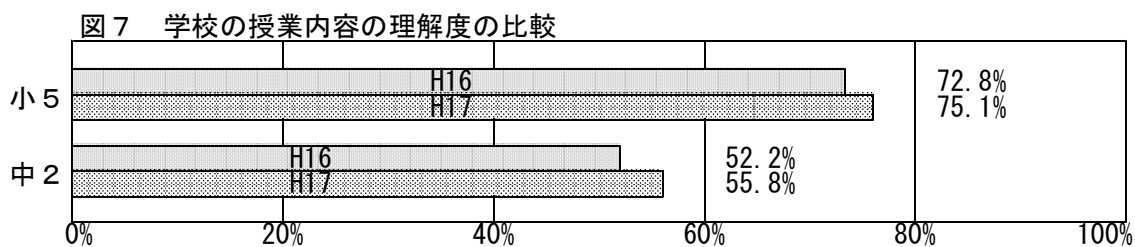


- 前年度は5教科すべてで4県の状況を下回ったが、今年度は社会（本県44.1%、4県41.2%）が4県の状況を上回ったほか、国語（4県59.4%）、数学（4県36.7%）は4県と同割合となった。
参画4県全体の状況（4県48.4%）と比較すると、本県が1.2ポイント下回った。

2 学習意識調査（別紙2）

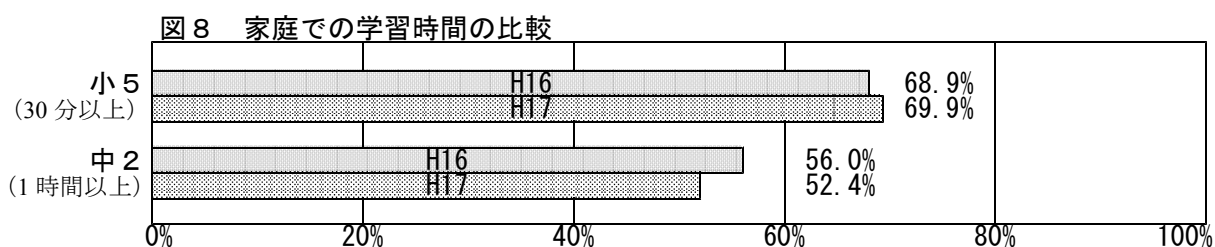
（1）授業理解度

- 授業内容の理解では、小学生は75.1%、中学生は55.8%であり、前年度と比べると小学生は2.3ポイント、中学生は3.6ポイント上回った（図7）。



（2）家庭での学習時間

- 平日における家庭での学習時間（塾等の勉強時間を含む）は、30分以上学習する小学生は69.9%で、前年度と比べると1.0ポイント上回った。また、1時間以上学習する中学生は52.4%で、前年度と比べると3.6ポイント下回った（図8）。



Ⅲ 今後の対応

1 各教科の課題（別紙3）

- （1）国語：書こうとすることの中心を明確にして書くこと及び漢字の意味や用法の理解を図ること（小学校）。資料から課題を見付け自分の考えを根拠付けて書くこと及び説明的な文章を構成を考えて論理的に読み取ること（中学校）。
- （2）社会：地図記号や四方位の意味や結び付きを理解すること及び統計資料を読み取り、複数の資料を関連付けて活用すること（小学校）。身近な地域における地図の見方について理解すること及び中世の日本の特色と大きな流れを理解すること（中学校）。
- （3）算数・数学：十進位取り記数法の理解を図ること及び数量の見方、考え方について理解を図ること（小学校）。文字式の計算や文字使用のきまりに従って表すこと及び比例・反比例の意味とグラフの特徴の理解を図ること（中学校）。
- （4）理科：空気や水の性質についての理解を図ること及び太陽や月、星の動きについての理解を図ること（小学校）。物質の状態変化について理解を図ること及び回路の電圧について理解を図ること（中学校）。
- （5）英語：概要・要点を読み理解すること及び伝えたいことを書くこと。

2 課題への対応

県教育委員会としては、指導法改善方を策定し研修の充実を図るなど教員の資質向上に努めるとともに、昨年度と同様に市町村別の問題ごとの正答率の状況を公表するほか、市町村教育委員会を通じ各学校ごとの結果情報を提供したり、県教育委員会ホームページに掲載するなどして広く情報を提供していく。

また、各教育委員会及び各学校に対し、調査結果と併せた学習指導上の対応方策の保護者等への説明及び方策の実践を促していく。

各調査の結果（概況）

1 学習状況調査（教科・領域別）

区分	教科	領域	問題数	正答率区分（単位：問）			設問の趣旨と結果等
				60%以上	40%以上 60%未満	40%未満	
小学校5年生	国語	話すこと・聞くこと	3	3			話し手の意図を考えながら、聞き取る問題。正答率は8割～9割。
		書くこと	3	1	2		総合学習の時間で学習したことをまとめる問題。正答率5割未満。
		読むこと	10	8	2		物語文や説明文を読み取る問題。正答率7割。目的や意図に応じて、文章の内容を的確に読み取る問題は正答率5割と低い。
		言語事項	15	9	5	1	漢字の読み書きや語句の問題は正答率8割以上。辞典の使い方及びローマ字の読み書きは正答率5割と低い。
		計	31	21	9	1	
	社会	地域の人々の安全な生活	7	7			安全を守る施設設備、仕事に関する問題。正答率は7割～8割と高い。
		地域のくらしの移り変わり	4	4			昔のくらしに関する問題。正答率が7割～9割と高い。
		地域の地形・土地利用	9	7	2		地図や地形図を読み取る問題。方位、等高線、地図記号が6割未満。
		我が国の農業	8	7	1		米作りの様子や農機具等について問う問題。正答率は7割以上と高いものの、グラフの読み取り問題は5割と低い。
		計	28	25	3		
	算数	数と計算	15	9	6		数のしくみの理解や四則計算に関する問題。小数のしくみやわり算の性質についての問題は正答率が5割と低い。
		量と測定	3	1	2		分度器や三角定規の使い方と平面図形の面積を求める問題。正答率は3問中2問が6割に満たない。
		図形	8	7	1		基本的な平面図形の性質の問題。二等辺三角形の底角を求める問題の正答率は6割未満である。
		数量関係	7	5	1	1	数量の見方や考え方についての理解や折れ線グラフから特徴を読み取る問題。数量の変わり方の規則性を捉える問題は正答率が3割と低い。
		計	33	22	10	1	
	理科	生物とその環境	13	9	3	1	季節による動物の活動についての理解をみる問題。虫の冬越しの理解をみる問題が正答率3割。植物の発芽とその条件をみる問題が4割。
		物質とエネルギー	13	7	4	2	空気の温度変化と電流の強さに係る記述問題が3割と低い。
		地球と宇宙	9	4	2	3	月や星の特徴や動きについての問題。月の動きの問題は3割。水のすがたと変わり方についての問題。水の沸騰時の泡に関する理解が約2割。
		計	35	20	9	6	
	小学校 合計			127	88	31	8
中学校2年生	国語	話すこと・聞くこと	3	3			話の内容とインタビューにおける話し手の工夫を聞き取る問題。正答率は7割以上と高い。
		書くこと	3	2	1		資料を読み取り根拠を挙げて考えを書く問題。論述問題で正答率5割。
		読むこと	10	5	4	1	文学的な文章及び説明的な文章の読み取りの問題。論理展開の仕方と表現の仕方について問う問題は4割前後と低い。
		言語事項	16	13	1	2	基本的な言語事項についての知識・理解をみる問題。修飾・被修飾の関係に関する問題が3割と低い。
		計	32	23	6	3	
	社会	世界と日本の地域構成	8	6	2		緯度、経度、都道府県の位置と名称に関する問題。正答率5割～6割。
		地域の規模に応じた調査	9	4	4	1	地図や地形図の読み取りや資料の活用についての問題。縮尺を基に実際の距離を求める問題で、正答率2割。
		古代までの日本	7	3	3	1	平安時代の政治、奈良時代の文化に関する問題で正答率6割未満。
		中世の日本	5	1	3	1	鎌倉幕府の創設者、室町時代の農村の問題で、正答率5割未満。
		近世の日本	5	3	2		豊臣秀吉の政策、武家諸法度、鎖国の問題で、正答率5割前後。
		計	34	17	14	3	
	数学	数と式	16	8	4	4	正負の数の四則計算等、基本的な計算力をみる問題。文字を用いて立式したり説明したりする問題で、正答率2割～3割。
		図形	7	5		2	平面図形や空間図形についての理解をみる問題。直線と面の位置関係についての理解や体積を求める問題で、正答率4割未満。
		数量関係	7	3	3	1	比例・反比例についての知識・理解やグラフに表す力を見る問題。比例関係にあるものを判断する問題で、正答率3割。
		計	30	16	7	7	
	理科	身近な物理現象	6	4	2		光や音の性質に関する問題。光の反射・屈折が5割、音の性質は6割、2力のつり合いの関係の問題は7割程度。
		身のまわりの物質	6	2	1	3	メスシリンダーによる測定、食塩の結晶の問題が正答率3割。状態変化による物質の質量と密度の問題は正答率2割未満。
		電流とその利用	6	1	4	1	回路の電圧に関する問題。測定値のグラフ化は正答率4割。オームの法則の適用問題は正答率6割程度。
		植物の生活と種類	8	3	5		植物の体のつくりと働きに関する問題。植物の体のつくり・種類・名称の問題は5割程度。
		大地の変化	6	3	2	1	地層と火成岩に関する問題。化石からの状況推察は9割。地震に関する問題は7割以上。示準化石と年代、火山岩のでき方が3割～4割。
動物の生活と種類		3	3			動物の体とつくり、動物の仲間分けに関する問題。正答率7割～8割。	
	計	35	16	14	5		
英語	聞くこと	10	10			英文を聞き情報を聞き取る問題。正答率は9割以上と高い。	
	読むこと	15	9	5	1	英文を読み要点を読み取る問題で、正答率3割。	
	書くこと	5	1	2	2	自分の好きなものを英語で紹介する問題。正答率は4割未満。	
	計	30	20	7	3		
中学校 合計			161	92	48	21	
小・中学校 合計			288	180	79	29	

2 期待正答率による問題区分

	教科	問題数	期待正答率とほぼ同程度の問題数 (A)	(A) を上回る問題数 (B)	(A) を下回る問題数 (C)	期待正答率と同程度以上 (A) + (B)
小学5年生	国語	31	9	8	14	17
	社会	28	4	17	7	21
	算数	33	11	8	14	19
	理科	35	7	11	17	18
	計	127	31 (24.4%)	44 (34.6%)	52 (41.0%)	75 (59.1%)
中学2年生	国語	32	5	14	13	19
	社会	34	11	4	19	15
	数学	30	6	5	19	11
	理科	35	5	13	17	18
	英語	30	10	3	17	13
	計	161	37 (23.0%)	39 (24.2%)	85 (52.8%)	76 (47.2%)
小中計	288	68 (23.6%)	83 (28.8%)	137 (47.6%)	151 (52.4%)	

3 学習意識調査 (項目・観点別)

項目	観点	結果 (特徴等)
学習に対する意識	①学習の大切さ	小・中学生とも9割が勉強は大切だと思っている。
	②学習する理由	小学生の9割, 中学生の8割が勉強は普段の生活や社会に出て役立つと思っている。
	③学習意欲	小学生の8割, 中学生の7割が普段の生活や社会に出て役立つ勉強をしたいと思っている。
学校での学習状況	①授業の理解	小学生の8割, 中学生の6割が学校の勉強が分かると回答している。
	②分からない場合の対応	小学生は「友人(6割), 家族(5割), 先生(5割)」の順にたずね, 中学生は「友人(6割), 自分で調べる(4割), 先生(3割)」の順になっている。
	③始業前の準備	小学生の6割, 中学生の7割が始業前に教科書等を準備。
	④教材等の準備	小・中学生とも8割が学校に持っていくものを事前(前日等)に確認している。
家庭での学習状況	①家庭での学習時間	小学生の4割, 中学生の5割が平日1時間以上(塾を含む)。小・中学生の3割が30分未満でそのうち小学生の1割, 中学生の2割はほとんどしない。
	②授業以外の学習方法	小学生の3割(算数), 中学生の5割(英語)が, 塾や家庭教師に教えられている。
	③学校の宿題(程度)	小学生の9割はほぼ毎日宿題が出されているが, 中学生の5割は週1回, 又はほとんど出されていない。
	④学校の宿題(教科)	宿題の中で多く出される教科は, 小学生は国語(9割), 算数(9割), 中学生は数学(6割), 英語(6割)。
	⑤家庭での学習内容	小学生の8割, 中学生の7割が宿題があれば学習し, 宿題以外の予習・復習をするのは小・中学生とも4割となっている。また, テストの前には小学生の4割, 中学生の7割が学習している。
	⑥家庭での学習環境	教えてもらう人は, 小学生の9割が家族, 中学生は5割が家族, 家庭教師や塾が3割, 誰もいないが2割である。
教科以外の学習	①読書時間	小・中学生の8割が平日の読書時間が1日30分未満, 中学生の5割は平日ほとんど読書をしない。
	②情報を得る手段	小・中学生の8割以上がテレビから, 次に新聞や本・雑誌となっている。インターネットからは, 小学生2割, 中学生は3割である。
家庭での過ごし方や生活習慣	①家庭での過ごし方	小・中学生とも5割がテレビ, ビデオ, ゲーム, パソコンで過ごしている。
	②睡眠時間	小学生の8割, 中学生の3割が8時間以上の睡眠をとっている。
	③朝食をとる習慣	小・中学生の9割以上は朝食をとっている。とらない小学生は4%, 中学生は7%である。

4 各教科の課題と改善の方向

(1) 小学校5年

教科	課題	改善の方向
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・書こうとすることの中心を明確にして書くこと ・漢字の意味や用法の理解を図ること 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文を書く過程で、事象と感想を区別し、段落と段落のつながり、中心となる言葉や文、字数制限などに留意した書く活動を取り入れる。 ・漢字の意味や用法、語彙力が身に付くように国語辞典等の活用を習慣化させる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地図記号や四方位の意味や結び付きを理解すること ・統計資料を読み取り、複数の資料を関連付けて活用すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・白地図や地図帳を活用ながら、地図と方位を合わせ、その位置関係を確認する活動を取り入れる。 ・発達段階に応じた資料を提示し、他の資料や事象と関連付けて考えさせるなど、思考し判断する場を意図的に設ける学習の展開を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・十進位取り記数法の理解を図ること ・数量の見方、考え方についての理解を図ること 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の構成を視覚的に捉えさせたり、繰り返し指導を行ったりして小数の仕組みや表記について確実な定着を図る工夫をする。 ・具体物を用いて問題場面を把握する活動や数量の関係を表やグラフに表して共通のきまりを見付け、言葉や式に表す活動などの充実を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・空気や水の性質についての理解を図ること ・太陽や月、星の動きについての理解を図ること 	<ul style="list-style-type: none"> ・空気や水の性質の違いを捉えさせる比較実験や空気や水の性質を利用したものづくり等の活動を取り入れる。 ・月や星の学習では、観察の視点や記録の仕方を事前に十分に指導するとともに、映像や模型を活用するなどして確実な知識の定着を図る工夫をする。

(2) 中学校2年生

教科	課題	改善の方向
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から課題を見付け自分の考えを根拠付けて書くこと ・説明的な文章を、構成を考えて論理的に読み取ること 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を箇条書きにして整理させ、その根拠となる材料を収集し、論点を明確にした文章にまとめさせる活動を取り入れる。 ・中心となる言葉や文を抜き書きさせ関連付けて把握させることをとおして、文章全体の内容を理解させる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域における地図の見方について理解すること ・中世の日本の特色と大きな流れを理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外での観察・調査で大縮尺の地図を活用し、生徒の生活圏の中で実際に距離を求める学習を意図的に取り入れる。 ・政治の展開、産業の発達、社会の様子などに着目させ、他の時代との相違点や共通点を明らかにしながら、中世の日本の特色について理解させる活動を取り入れる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・文字式の計算や文字使用のきまりに従って表すこと ・比例・反比例の意味とグラフの特徴の理解を図ること 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面の中の数量関係を把握するために、具体的な数値を当てはめながら表や図に表す活動を取り入れ、立式の手がかりや説明手順の見通しがもてる指導に努める。 ・伴って変わる二つの数量関係の対応表を活用して、グラフや式に表したり、対応表から数量の変化の関係を見出したりするなど、表と式、グラフを関連付けた活動を取り入れる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・物質の状態変化についての理解を図ること ・回路の電圧についての理解を図ること 	<ul style="list-style-type: none"> ・体積が変化する現象について、状態変化の概念が確実に定着するように質量、密度等の用語やモデル図等を用いて説明させる活動を取り入れる。 ・回路の電圧を測定する実験結果から、全体と各部の電圧の大きさの関係を、生徒自らが見出せる活動を取り入れる。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・概要・要点を読み理解すること ・伝えたいことを書くこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書等の英文を読んで大切な情報や要点を的確に把握する学習を重視する。 ・基礎的・基本的な文法事項の確実な定着を図るとともに、身近な事柄を取り上げ、まとまりを意識した英文を書く指導を多く取り入れる。

5 地方分権研究会結果概況－地方分権研究会参画県全体（宮城，岩手，和歌山，福岡）の状況－

(1) 正答率60%以上段階の問題数とその割合の4県と宮城県との比較

① 平成17年度

※数字は問題数であり，カッコ内はその割合

校種	小学校					中学校					小中計	
	国語	社会	算数	理科	計	国語	社会	数学	理科	英語		計
問題数	31	28	33	35	127	32	34	30	35	30	161	288
4県	23 (74.2%)	25 (89.3%)	23 (69.7%)	22 (62.9%)	93 (73.2%)	24 (75.0%)	17 (50.0%)	18 (60.0%)	16 (45.7%)	20 (66.7%)	95 (61.8%)	188 (65.3%)
宮城県	21 (67.7%)	25 (89.3%)	22 (66.7%)	20 (57.1%)	88 (69.3%)	23 (71.9%)	17 (50.0%)	16 (53.3%)	16 (45.7%)	20 (66.7%)	92 (57.1%)	180 (62.5%)

② 平成16年度

校種	小学校					中学校					小中計	
	国語	社会	算数	理科	計	国語	社会	数学	理科	英語		計
問題数	31	29	34	37	131	31	33	27	38	30	159	290
4県	23 (74.2%)	22 (75.9%)	30 (88.2%)	25 (67.6%)	100 (76.3%)	25 (80.6%)	11 (33.3%)	14 (51.9%)	12 (31.6%)	22 (73.3%)	84 (52.8%)	184 (63.4%)
宮城県	22 (71.0%)	22 (75.9%)	28 (82.4%)	24 (64.9%)	96 (73.3%)	24 (77.4%)	11 (33.3%)	13 (48.1%)	12 (31.6%)	22 (73.3%)	82 (51.6%)	178 (61.4%)

(2) 期待正答率と同程度以上の問題数とその割合の4県と宮城県との比較

① 平成17年度

※数字は問題数であり，カッコ内はその割合

校種	小学校					中学校					小中計		
	国語	社会	算数	理科	計	国語	社会	数学	理科	英語		計	
問題数	31	28	33	35	127	32	34	30	35	30	161	288	
期待正答率を上回るもの(A)	4県	9	17	9	11	46	14	4	5	13	3	39	85
	宮城県	8	17	8	11	44	14	4	5	13	3	39	83
期待正答率と同程度のもの(B)	4県	9	4	14	7	34	5	10	6	6	12	39	73
	宮城県	9	4	11	7	31	5	11	6	5	10	37	68
期待正答率を下回るもの(C)	4県	13	7	10	17	47	13	20	19	16	15	83	130
	宮城県	14	7	14	17	52	13	19	19	17	17	85	137
期待正答率と同程度以上(A)+(B)	4県	18 (58.1%)	21 (75.0%)	23 (69.7%)	18 (51.4%)	80 (63.0%)	19 (59.4%)	14 (41.2%)	11 (36.7%)	19 (54.3%)	15 (50.0%)	78 (48.4%)	158 (54.9%)
	宮城県	17 (54.8%)	21 (75.0%)	19 (57.6%)	18 (51.4%)	75 (59.1%)	19 (59.4%)	15 (44.1%)	11 (36.7%)	18 (51.4%)	13 (43.3%)	76 (47.2%)	151 (52.4%)

② 平成16年度

校種	小学校					中学校					小中計		
	国語	社会	算数	理科	計	国語	社会	数学	理科	英語		計	
問題数	31	29	34	37	131	31	33	27	38	30	159	290	
期待正答率を上回るもの(A)	4県	10	13	14	12	49	13	1	0	6	9	29	78
	宮城県	10	12	12	11	45	13	1	0	6	12	32	77
期待正答率と同程度のもの(B)	4県	8	8	10	8	34	7	6	10	4	7	34	68
	宮城県	7	7	10	7	31	5	5	8	2	3	23	54
期待正答率を下回るもの(C)	4県	13	8	10	17	48	11	26	17	28	14	96	144
	宮城県	14	10	12	19	55	13	27	19	30	15	104	159
期待正答率と同程度以上(A)+(B)	4県	18 (58.1%)	21 (72.4%)	24 (70.6%)	20 (54.1%)	83 (63.4%)	20 (64.5%)	7 (21.2%)	10 (37.0%)	10 (26.3%)	16 (53.3%)	63 (39.6%)	146 (50.3%)
	宮城県	17 (54.8%)	19 (65.5%)	22 (64.7%)	18 (48.6%)	76 (58.0%)	18 (58.1%)	6 (18.2%)	8 (29.6%)	8 (21.1%)	15 (50.0%)	55 (34.6%)	131 (45.2%)

注(1)「期待正答率」とは，地方分権研究会として掲げる全体的な学習の目標（全体として正答率65%～75%を目標）に沿って，個々の問題ごとに正答を期待する児童生徒の割合を%で表したものである。

注(2)「期待正答率とほぼ同程度」とは期待正答率と±5%の範囲内にあるもの。

注(3)地方分権研究会では，今回の調査において，期待正答率とほぼ同程度以上の問題が過半数（表中A+B≥C）であれば，学習定着は良好と判断することとしている。

[参考資料] 総合正答率からみた経年比較と4県との比較

1 小学校の状況

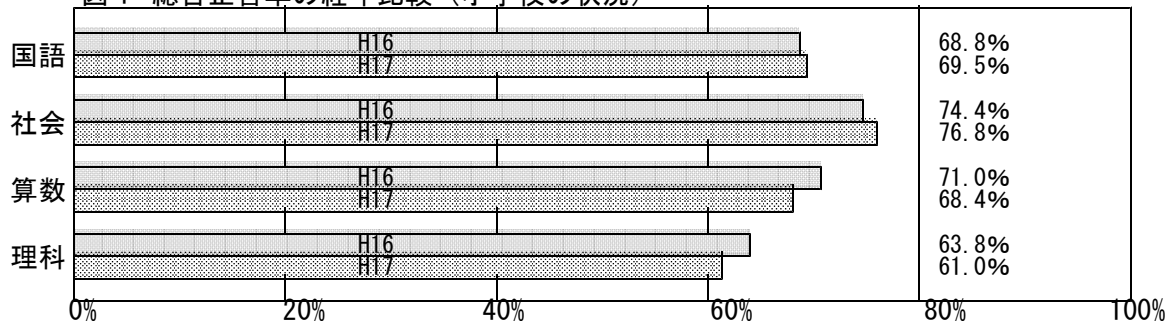
(1) 各教科の総合正答率(表1参照)

○ 各教科の総合正答率は、国語69.5%、社会76.8%、算数68.4%、理科61.0%であった。

(2) 総合正答率の前年度との比較(別紙6参照)

○ 総合正答率の前年度との比較では、国語(+0.7ポイント)、社会(+2.4ポイント)の2教科で前年度を上回り、算数(-2.6ポイント)、理科(-2.8ポイント)は下回った(図1)。

図1 総合正答率の経年比較(小学校の状況)



○ 国語、社会での総合正答率の上昇傾向、算数、理科での総合正答率の下降傾向は他の3県も同様である。

(3) 4県平均との比較

○ 各教科の総合正答率は、4教科とも4県平均を下回った(表1)。

表1 各教科の総合正答率(小学校の状況)

教科	宮城県	岩手県	和歌山県	福岡県	4県
国語	69.5	74.9	70.6	70.9	71.3
社会	76.8	80.2	75.6	76.9	77.5
算数	68.4	72.9	70.9	71.1	70.4
理科	61.0	67.9	60.5	58.6	62.6

2 中学校の状況

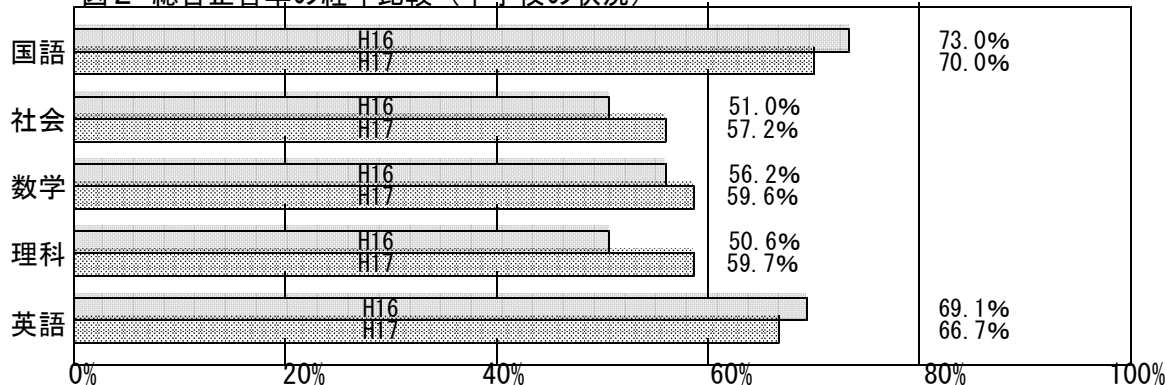
(1) 各教科の総合正答率(表2参照)

○ 各教科の総合正答率は、国語70.0%、社会57.2%、数学59.6%、理科59.7%、英語66.7%であった。

(2) 総合正答率の前年度との比較(別紙6参照)

○ 総合正答率の前年度との比較では、社会(+6.2ポイント)、数学(+3.4ポイント)、理科(+9.1ポイント)の3教科で前年度を上回り、国語(-3.0ポイント)、英語(-2.4ポイント)で前年度を下回った(図2)。

図2 総合正答率の経年比較(中学校の状況)



○ 社会、数学、理科での総合正答率の上昇傾向、国語、英語での総合正答率の下降傾向は他の3県も同様である。

(3) 4県平均との比較

○ 英語の総合正答率は、4県平均を上回ったが、他の4教科は下回った(表2)。

表2 各教科の総合正答率(中学校の状況)

教科	宮城県	岩手県	和歌山県	福岡県	4県
国語	70.0	72.7	68.9	69.4	70.6
社会	57.2	58.6	56.1	60.2	57.6
数学	59.6	57.8	63.1	62.0	59.9
理科	59.7	61.3	58.5	61.1	60.0
英語	66.7	64.1	69.6	66.7	66.5

注 各教科の「総合正答率」とは、問題ごとの正答数の合計を解答者数の合計で割ったもの。

表 総合正答率の経年比較と4県との比較

教科等	県名	H17年度 総合正答率	総合正答率 増減	H16年度 総合正答率	
小学校 5年	国語	宮城県	69.5	△0.7	68.8
		岩手県	74.9	△2.0	72.9
		和歌山県	70.6	△0.4	70.2
		福岡県	70.9	△0.2	70.7
		4県	71.3	△0.9	70.4
	社会	宮城県	76.8	△2.4	74.4
		岩手県	80.2	△1.5	78.7
		和歌山県	75.6	△1.1	74.5
		福岡県	76.9	△1.9	75.0
		4県	77.5	△1.8	75.7
	算数	宮城県	68.4	▼2.6	71.0
		岩手県	72.9	▼1.3	74.2
		和歌山県	70.9	▼3.5	74.4
		福岡県	71.1	▼1.4	72.5
		4県	70.4	▼2.3	72.7
	理科	宮城県	61.0	▼2.8	63.8
		岩手県	67.9	▼1.1	69.0
		和歌山県	60.5	▼2.7	63.2
		福岡県	58.6	▼3.3	61.9
		4県	62.6	▼2.4	65.0
中学校 2年	国語	宮城県	70.0	▼3.0	73.0
		岩手県	72.7	▼2.8	75.5
		和歌山県	68.9	▼3.3	72.2
		福岡県	69.4	▼4.6	74.0
		4県	70.6	▼3.0	73.6
	社会	宮城県	57.2	△6.2	51.0
		岩手県	58.6	△4.8	53.8
		和歌山県	56.1	△3.7	52.4
		福岡県	60.2	△8.5	51.7
		4県	57.6	△5.5	52.1
	数学	宮城県	59.6	△3.4	56.2
		岩手県	57.8	△2.1	55.7
		和歌山県	63.1	△2.0	61.1
		福岡県	62.0	△3.8	58.2
		4県	59.9	△2.8	57.1
	理科	宮城県	59.7	△9.1	50.6
		岩手県	61.3	△8.7	52.6
		和歌山県	58.5	△5.2	53.3
		福岡県	61.1	△11.5	49.6
		4県	60.0	△8.4	51.6
英語	宮城県	66.7	▼2.4	69.1	
	岩手県	64.1	▼3.5	67.6	
	和歌山県	69.6	▼2.6	72.2	
	福岡県	66.7	▼2.1	69.0	
	4県	66.5	▼2.8	69.3	